

二〇二一年度 入学式 式辞

新入生のみなさん、ご入学、誠におめでとうございます。例年とは違い、規模を縮小して、かつ時間も短くしたこの式典に戸惑っている人も多いことでしょう。しかし、昨年来のコロナ禍により、このような形でも入学式が行えることに、私ども教職員は心から喜んでいきますし、また安心していらっしゃることもあります。

さて、まずはようこそ、私どもの帯広大谷短期大学へ入学されました。心から歓迎いたします。皆さんはコロナ禍という極めて異常な時代に短大生になりました。ちなみに現2年生は入学式ができないまま進級し、今に至っています。リモート授業も多くなり、全てが日常とは異なりつつ動いているのが現状です。

しかし、これをこのまま不幸と捉えるのか、それとも「人生の関門」として、あるいは「乗り越えるべき壁」として考えるのかによって、皆さんは全く違った人生を歩むことになると思います。もちろん、正解はいくまでもないでしょう。積極的に、前向きに、人としてのように生きていくのか考えていく機会として捉えてほしいと願っています。それが「いのち」の意味を問いつづける本学の建学の精神の具現化であると思います。実際、3月に卒業し、社会に巣立っていった学生たちは、今まで私たちが見たこともないような速度で「人」としての成長を遂げていました。

新型コロナウイルスは人と人との繋がりを根本から否定するような、私たちにとってやるせないくらい酷い仕打ちをこの1年間行ってきました。おかげで、私たちは他人と触れ合うこともできず、ただ我慢に我慢を重ねて、時を過ごしてきたわけです。しかし、いつまでもこの状態が続くとは思えません。人間の叡智は必ずやコロナに打ち勝ち、新しい可能性豊かな時代を導き出すと思っています。皆さんは来るべき時代の舵取り役として社会から期待をされていると考えます。どうか、常に思考し続け、自らの思う正しさを求めていくような、そんな思考様式をこの帯広大谷短期大学の2年間で作り上げてください。

この学び舎での生活が皆さんの人生において素晴らしき価値のある2年間となれますように祈念しています。

皆さんの夢や希望に私たちは常に寄り添い、この地域に必要な人となれるよう支援をして参ることをお約束して、簡単ですが式辞といたします。ご入学おめでとうございます。私どもとともに歩みましょう。

二〇二二年（令和三年）四月二日

帯広大谷短期大学長 田中 厚一